

## 公認心理師に求められるもの ——一般医療領域で働く心理専門職のために——

中嶋 義文

公認心理師は領域横断的資格であり、そのカリキュラムと試験の中で医療以外の領域もカバーしなければならない。一方で医療領域で働く心理専門職の数は最も多く、その意味でも公認心理師およびその候補生には医療領域の知識・技能は相当量要求される。本稿では、特に精神科領域に限らず一般医療領域で求められる知識・技能・態度とその教育・研修システムについてこれまでの経緯を踏まえ今後の課題について示した。公認心理師に必要な基本的な医療に関する知識・技能は、医療を規定している法律（医療法・医師法）に関する知識や、医療文化に関すること（保険医療の仕組みや地域包括支援など医療体制の知識、医療安全・感染制御の知識・技能）、当事者（患者）すなわち非専門家/素人目線での医療知識である。一般医療領域においてはさらに、①多角的理解力、②力動理解と協働能力、③疎通困難な患者との疎通能力が求められる。公認心理師の水準、各職域領域の水準、専門領域、サブスペシャリティの水準が明示化されることで心理職の専門職性が確固たるものとなっていくであろう。公認心理師の連携の義務に鑑みて、すべての公認心理師に必要な資質として、OAR すなわち O（開放性）、A（利用可能性）、R（責任性/専門性）が重要である。

<索引用語：公認心理師，カリキュラム，一般医療領域，研修システム，OAR>

### はじめに

2015年7月成立、2017年9月施行の公認心理師法によって、心理専門職（以下、心理職）にとつて悲願であった国家資格化が実現する。公認心理師資格は名称独占、領域横断という2つの特徴を有する。前者は医師の業務独占資格であり、医業は医師でなければ行うことができないのに対し、心理観察・分析・援助・教育・情報提供などの業務は公認心理師以外でも行うことができるが、公認心理師以外のものは名乗ることができないということである。後者は医療以外の領域〔法文上は保健医療、福祉、教育その他の分野（第二条）〕をもカバーして働くことが想定されているということである。医療領域で働く心理職の数は最も多く

（図1）、その意味でも公認心理師およびその候補生には医療領域の知識・技能は相当量要求される。本稿では、特に精神科領域に限らず一般医療領域で求められる知識・技能・態度とその教育・研修システムについてこれまでの経緯を踏まえ今後の課題について示す。

### I. 一般医療における心理職の現状

精神医療はメンタルケアそのものであるが、一般医療においてもメンタルケアは普遍的に必要とされている。コンサルテーション・リエゾン・サービスのように専門性をもった形で一般医療に提供されるのみならず、急性期医療・慢性期医療・リハビリテーション医療・在宅医療のそれぞ

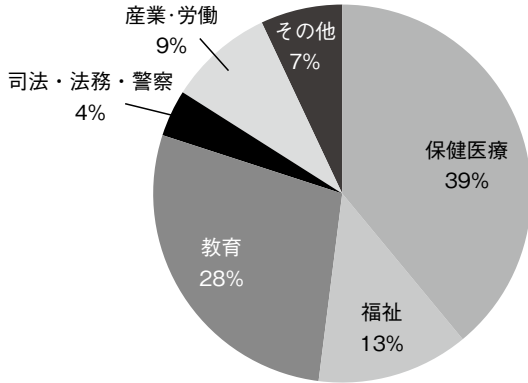


図1 領域ごとの心理職としての現状の勤務者数 (2014) [平成 26 年度厚生労働科学特別研究事業「心理職の役割の明確化と育成に関する研究」(主任研究者：村瀬嘉代子)を踏まえ、厚生労働省障害保健福祉部精神・障害保健課で整理] (文献 2 より引用)

れに異なるメンタルケアへのニーズが存在する。例えば慢性身体疾患を抱える患者の数は慢性腎臓病 (CKD) で 1,300 万人、透析で 31 万人、糖尿病で 700 万人、虚血性心疾患で 81 万人、がんで 152 万人にもものぼる。これらすべての患者に軽重はあれメンタルケアのニーズがあり、医師、精神科医、看護師、他のメディカルスタッフが家族や他の援助者ととともに援助することが期待されている。公認心理師がこのような援助の先導役を果たすニーズが確実にある。

一般病院、精神科病院、精神科診療所に勤務する推定常勤者数を表 1 に示す。一般病院に雇用されている心理職数は常勤者推計で 2,400 名であり、のべ 3 病院に 1 名程度常勤雇用されていることがわかった。しかし、そのほとんどが 1 名の雇用であった。病床規模でみると、病床規模が大きくなるほど常勤雇用している施設数も増え、雇用も複数となる傾向が認められたが、小規模病院でも積極的に雇用している病院もある。非常勤職の多数は週 5 日以上勤務であり、心理職の身分の不安定さがうかがわれる。

常勤・非常勤を問わずこれらの心理職の 8 割が女性であり、30 歳未満が 20%、30~35 歳未満が 25%、35~39 歳未満が 20% (医療保健領域臨床歴

表 1 医療領域の心理職の現状

施設種別	施設数	推定常勤者数
一般病院	7,500	2,400
精神科病院	1,200	3,200
精神科診療所	1,600*	700
一般診療所	100,000	NA

\*日本精神神経科診療所協会加盟施設，精神科標榜は 6,000 施設 (文献 1 より引用)

は 5 年以下が 38%、6~10 年以下が 30%) と比較的若く、ほとんどが臨床心理士資格をもって働いていることが明らかとなっている。所属組織は 30% が精神科、心理相談部門で独立しているのが 12.4%、小児科 (11.4%) やリハビリテーション科 (5.5%)、緩和ケア科 (4.8%)、神経内科 (4%)、心療内科 (3.8%)、周産期母子医療センター (3.5%) など関連する科以外にも看護部やがん相談支援センター、地域医療福祉連携相談などその他の診療支援部門の所属も 12.4% と多い。メディカルスタッフとして働く他の職種はすべて国家資格であるのに対し、心理職は公認心理師法成立まで国家資格がなかったため、身分保障や処遇面で不利を被っており、事務職として雇用されている場合も多かった。公認心理師として身分保障が行われると処遇面での不利は現状より改善されることが期待されている。

表 2 に一般病院において実施している業務内容とその割合を示す。心理検査・アセスメントや心理面接のみならず、カンファレンス参加やリエゾン活動、医療チームへの参加などチーム医療での役割、教育・研修、病院内の産業保健活動、地域支援活動などコミュニティ支援までさまざまな役割をこころの専門家として実行していることがわかる。表 3 にはその詳細を示した。

表 4 に現在の医療保健領域の職種別従事者数と一学年定員、精神保健領域の職種別従事者数を示す。各職種の数は需給バランスによって決定され、学年定員の増減によって管理されている。日

表2 一般病院における心理職の業務 (n=631)

実施している業務内容 (複数回答可)	人数	
心理検査・アセスメント	562	89.1%
個人心理面接 (家族面接・心理教育を含む)	562	89.1%
カンファレンス参加	526	83.4%
リエゾン活動 (院内での他部門との連携)	466	73.9%
医療チームへの参加	451	71.5%
コンサルテーション	432	68.5%
機関内スタッフに対する研修・講義	388	61.5%
研究活動 (院内または多施設研究への参加)	328	52%
職員メンタルヘルス活動	311	49.3%
実習生 (心理職に限らない)・研修医指導	251	39.8%
集団療法(グループワーク・デイケアを含む)	214	33.9%
地域支援活動 (アウトリーチ・訪問を含む)	146	23.1%
その他	116	18.4%

(文献1より引用)

本臨床心理士会の実態調査によれば、現状の臨床心理士有資格者のうち 6,000~7,000 名が医療保健領域に従事しているとされている。公認心理師資格は領域横断の名称独占資格であるが、需給バランスからは医療保健領域のみでも精神科医数と同程度、10,000~15,000 名が必要とされ、したがって当面 1 年間に 1,000 名程度は医療保健領域に採用されると想定している。

## II. 一般医療において必要とされる心理職の知識・技能・態度

それではこのような多様な役割を担っている一般病院における心理職に求められる知識・技能とは何であろうか。われわれはコンサルテーション・リエゾンを中心とした 400 時間程度のインターンシップを修士卒レベルの心理職に対して提供しており、その経験から一般医療における心理職教育・研修について提言を行っている<sup>3,4)</sup>。インターンシップ修了生のほとんどが専門的な医学知識の不足に不安を訴えた。現代の医療は高度専門化・細分化しており、ある領域の専門医が他の領

域の専門医療について熟知することは不可能になっている。したがって、一般病院で働く可能性のある心理職にとっては、基本的な医療に関する知識をもっていれば十分であろう。公認心理師は領域横断的な名称独占資格であることを鑑みれば、すべての公認心理師が医療・保健領域における基本的な医療に関する知識・技能をもつことが望まれる。それは、医療を規定している法律 (医療法・医師法) に関する知識や、医療文化に関すること (保険医療の仕組みや地域包括支援など医療体制の知識、医療安全・感染制御の知識・技能) などであろうし、当事者 (患者) すなわち非専門家/素人目線での医療知識であろう。これらは公認心理師のカリキュラムに組み込まれるべき項目である。

一般医療の現場で実際に働く心理職においてはさらに要求水準が上がる。

第一に、多角的理解力が挙げられる。身体・心理・社会・倫理的観点 (bio-psycho-social-ethical model) や疾病・特性・行動・人生の観点 (perspective model) や EBM (evidence-based medi-

表3 臨床の場の違いによる心理職の業務

所属機関	職名	業務内容
病院・診療所	臨床心理士 臨床発達心理士 心理士 心理療法士 心理技術職	心理検査（発達検査・認知機能検査・人格検査など） 心理査定/アセスメント（行動観察を含む） 心理療法（個人・家族）・遊戯療法 心理教育（個人・家族） 集団療法 集団精神療法 SST 心理教育プログラム 特定領域の治療・リハビリプログラム 思春期 依存・嗜癮 認知症（回想法などを含む） がん 慢性疾患（糖尿病、心疾患、HIV など） デイケア・ナイトケア チーム医療 多職種とのカンファレンス 緩和ケアチーム リエゾンチーム 認知症ケアチーム 特定の疾患に関する医療チーム参加（糖尿病など） コンサルテーション活動 リエゾン活動（特定領域の全例面接を含む） 地域・関連機関との連携 自律訓練法・リラクゼーション指導 医師の診療補助 予診 診察補助 職員のメンタルヘルス支援 職員の教育・研修 院内の啓発活動 電話相談・相談窓口 自殺予防・対応 事例検討 スーパービジョン 研修医指導，実習生指導 臨床心理学的研究，学会活動，研修講師
小児専門病院	臨床心理士 臨床発達心理士 心理士 心理療法士 心理技術職	心理検査 発達評価 発達相談 心理面接 心理療法 保護者への面接 NICUでの母子評価・面接 がん患者・家族の相談・援助 慢性疾患をもつ子ども・家族への心理的援助 遺伝疾患をもつ子ども・家族への心理的援助 多職種集団外来 病棟回診への同行 コンサルテーション 多職種カンファレンス 多機関合同カンファレンス 学会発表・研修・講演

表 4 医療保健領域の職種別従事者数

資格名	従事者数	学年定員	資格名	従事者数	学年定員
医師	311,205 (2014)	9,262 (2016)	臨床検査技師	184,211 (2014)	1,714 (2015)
歯科医師	103,972 (2014)	2,720 (2016)	衛生検査技師	143,660 (2014)	—
保健師	58,535 (2013)	18,710 (2014)	視能訓練士	12,085 (2014)	1,313 (2015)
助産師	36,395 (2013)	8,615 (2014)	臨床工学技士	34,698 (2014)	2,610 (2015)
看護師	1,103,913 (2013)	65,263 (2015)	義肢装具士	4,447 (2014)	333 (2015)
准看護師	372,804 (2013)	10,697 (2015)	救急救命士	48,742 (2014)	3,925 (2015)
歯科衛生士	116,299 (2014)	8,598 (2015)	言語聴覚士	23,750 (2014)	3,121 (2015)
歯科技工士	35,668 (2014)	1,865 (2015)	あん摩マッサージ指 圧師	113,215 (2014)	2,746 (2015)
診療放射線技師	76,992 (2014)	2,756 (2015)	はり師	108,537 (2014)	7,378 (2015)
理学療法士	120,072 (2014)	13,836 (2015)	きゅう師	106,642 (2014)	7,378 (2015)
作業療法士	70,672 (2014)	7,412 (2015)	柔道整復師	63,873 (2014)	8,797 (2015)
精神科医師	15,187 (2014)		臨床心理士 (医療保 健領域のみ)	6,000~7,000	
心療内科医師	903 (2014)		公認心理師 (見込・ 医療保健領域のみ)	10,000~15,000?	1,000?
精神保健福祉士	71,371 (2016)				

cine) など複合的な視点からクライアントを理解することが必要となる。特定の技法や立場に偏らず、さまざまな視点からの心理観察・分析・援助・教育・情報提供などの業務を遂行できることが理想である。

第二は、医療の現場における力動理解と協働能力である。チーム医療においては、その場の力動を見極めて振る舞う（発言する・発言しない、立場・態度を示す・示さない）ことが重要である。カウンセリングスキルのようなメンタルケアのコアスキルよりも専門性の高い個人精神・心理療法の技能や集団を取り扱う技能がここで求められる。コンサルテーション・リエゾン・サービスの基本技能、すなわちコンサルテーション（おとしどころを探る）、リエゾン（折り合いをつける）技能も同様に必要となる。

第三は、治療中で疎通困難な患者との疎通能力である。心理職は会話、言語によるコミュニケーションに頼りすぎるきらいがある。言語によるコ

ミュニケーションが困難な場合に代替の方法（モジュール）を考案すること、身体言語の重要性を認識し利用することが必要となる。

一般医療の現場において心理職が専門職として成長するのに伴い求められる職能レベルも変化する。表5に移植医療において心理職に求められる職能レベルを査定・面接・地域援助・研究という臨床心理士の4つの職能と公認心理師レベル（standard）、その領域であれば獲得すべき専門レベル（advanced）、興味・関心によってかかわる特別領域（specialized）に分けて示す。このように公認心理師の水準、各職域領域の水準、専門領域、サブスペシャリティの水準が明示化されることで心理職の専門職性が確固たるものとなっていくであろう。

おわりに

——OAR をその手に——

一般医療、チーム医療の現場は、患者を運ぶ

表5 移植医療において心理職に求められる職能レベル

	standard		advanced	specialized
査定	心理状態評価	心理社会状況評価 就業環境評価	身体状況評価	
面接	ナラティブ重視	治療導入強化	QOL 維持	移植意思決定支援
地域援助	多職種連携援助	アウトリーチ		就労支援
研究	主観的健康度		移植意思決定	『病』の体験

ボートに多職種が乗り込み、力を合わせて激流を下るラフティングのようなものである。乗り込むそれぞれの専門職は手に権（OAR）をしっかりとっていないなければならない。このOARが一般病院で働く心理職にとってもっとも大切なものであると私は考えている。

O：Open（開放性）。開かれており、閉じていないこと。

A：Available（利用可能性）。必要があるときにそこにいて役割をはたすこと。

R：Responsible（責任性/専門性）。専門家として責任を示すこと。

この3つは一般医療における心理職にとって重要であるだけでなく、公認心理師の連携の義務に

鑑みて、すべての公認心理師に必要な資質であろう。

なお、本論文に関連して開示すべき利益相反はない。

### 文 献

- 1) 平成 26 年度厚生労働科学特別研究事業「心理職の役割の明確化と育成に関する研究」(主任研究者：村瀬嘉代子) 報告書, 2015
- 2) 厚生労働省：資料4(<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-Kikakuka/0000137284.pdf>) (参照 2016-12-21)
- 3) 中嶋義文：チーム医療, コンサルテーション・リエゾン. 臨床心理学, 15 (1); 34-38, 2015
- 4) 富岡 直, 中嶋義文：総合病院での心理職の訓練システム. 臨床心理学, 13 (1); 101-106, 2013

## Educational System for Certified Psychologists in General Hospitals

Yoshifumi NAKASHIMA

*Department of Psychiatry, Mitsui Memorial Hospital*

The certified psychologist is a cross-disciplinary profession ; thus, the qualification test and curriculum should cover not only medical but also non-medical areas. The number of mental health professionals working in medical areas is high. Knowledge and skills in the health care area are necessary for certified psychologists and candidates. Knowledge covers laws and systems of medical services, including medical safety and infection control, and medical knowledge at the non-professional/patient level. In the general medical area, skills of : 1) having multilevel perspectives, 2) understanding dynamics and collaborating, and 3) facilitating communication with difficulties, are necessary. When going down the clinical river, holding an OAR [Open, Available, Responsible] is significant, not only for those who working in the medical area but for everyone, because every certified psychologist is obligated to cooperate.

< Author's abstract >

< **Keywords** : certified psychologist, curriculum, general medical area, educational system, OAR >

---